

ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

10

ホッーラヒュ



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

10

セット商品につき分冊販売不可

発行所 株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表) 〒102

発行者 鈴木 勤
編集 株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印刷 株式会社東京印書館
製本 中央精版印刷株式会社
製函 文京紙器株式会社
用紙 神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表紙 ダイニック株式会社

凡 例

この《世界文化大百科事典 ジュピター》は、現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして、項目の解説は、その記述内容が的確・敏速に把握できるよう、つとめて簡明・平易なものとしたが、各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け、一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し、総括的な理解が得られるようにしてある。また、カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し、内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

- 1 各ページに収録されている項目を、そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目、奇数ページには最後の項目の、それぞれ第4音節めまでをかなで示した。ただし、促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し、長音〈ー〉は除いた。

東 京→トウキョ

ヨーロッパ→ヨロッパ

- 2 項目の見出しは、〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し 本見出し
げんじものがたり 【源氏物語】
エヌエイチケー 【NHK】
インキ 【ink】

- 1) 国語読みおよびそれに準ずるものは、現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし、現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては、〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず 【沼津】⇒ぬまづ

- 2) 外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し、〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヅ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン (ベートーヴェンとはしない)

ベネチア (ヴェネチアとはしない)

ただし、外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ 【羅紗】

らっぱ 【喇叭】

- 3) 地名で、日本の行政区画および外国の国名・地域名、山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは、検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか 【大阪(府)】

おおさか 【大阪(市)】

ミシシッピ(州)

ミシシッピ(川)

- 4) 中国・朝鮮の地名・人名は、原則として日本で慣用されている国語読みで示し、現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう 【河北省】 ホーベイ省

ふざん 【釜山】 プサン

もうたくとう 【毛沢東】 マオツォートン

ただし、国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用語のものはそれに従った。

シャンハイ 【上海】

ペキン 【北京】

メイランファン 【梅蘭芳】

- 5) 本見出しでは、かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し、外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ 【入れ墨】 刺青・文身とも書く。

ウイスキー 【whisky】

ただし、原語のつづりでイタリック体は、植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ 【Aloe】

項目の配列

- 1 かな見出しの五十音順に配列し、清音→濁音→半濁音の順とした。

{ しんくう 【真空】
しんぐう 【新宮(市)】
じんぐう 【神宮】

{ はい 【肺】
ばい 【蜚】
パイ 【pie】

- 2 促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ じゅう 【銃】
じゅう 【自由】

- 3 長音の〈ー〉は音順から除外したが、同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

{ あへん 【阿片】
アーヘン 【Aachen】

- 4 同音のものは次の順とした。

- a) 見よ項目→解説のある項目

{ あか 【赤】 ⇒色
あか 【垢】

- b) 普通名詞→固有名詞

{ じゅんし 【殉死】
じゅんし 【荀子】

- c) 固有名詞では地名→人名

- d) 町名などで同音の場合は北から南への順

- e) 人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め、各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって、五十音順による項目配列の当該の位置には、その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇 宙

すべての天体とそれを含む全空間、いい
かえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

- かなづかいは、歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き、すべて現代かなづかいを用いた。
- 送りがなは、原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。
- 漢字は、原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし、固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い、()の中にその読み方をひらがなで示した。

- 生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち、教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは、それになった。ただし、生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。
- 年代は、原則として西暦で示した。ただし、国内に関する記述の場合は、その項目の初出の箇所に年号を併記した。
- 外国地名の表記は、原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。
- 外国語・外来語の表記については、〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

- 日本の都道府県市町村の人口は、自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし、10,000以上の場合は100位で、10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。
- 都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業、鉱業・建設業・製造業などの第2次産業、商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は、総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。
- 外国およびその地域・主要都市の人口は、主として国際連合編《人口統計年鑑1976年版》によったが、他の資料によって補ったところも多い。

地 図

- 日本の都道府県と8地方、世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け、また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。
- 地図の記号は一般の地図記号に準じているが、都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。
- 都道府県と独立国の地図の地貌表現は、等高線段彩で示した。しかし、全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり、その数値は各図中の等高線上に記入してある。
- 地図中の地名の表記は、本文の地名表記の基準に従った。

た。

符号・記号

解説文中に用いた、おもな符号・記号は次のとおりである。

⇒ 指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん 【関西弁】 ⇒ 方言

しょせき 【書籍】 ⇒ 図書

サイン ⇒ 正弦

ジンフイズ ⇒ カクテル

→ 解説文中または末尾につけて、参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は、
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの

あいいろ 【藍色】 ……(解説)……。→色

* 解説文中の用語の右肩につけて、その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん 【安山岩】 中性の火山岩^{*}。

いほうじん 【異邦人】 カミュ^{*}の小説。

[] < > 解説文中に中見出し・小見出しを施し、解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合

【名称・歴史】

【生活】

【衣食】

【住居】

【風俗習慣】

【音楽】

貨幣の場合

【種類】

【制度】

【歴史】 <西洋> <中国> <日本>

< > 引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に<日本国民は、正義と ……

戦没者の塔や<ひめゆりの塔>などがあり、 ……

< > 書名・曲名・題名を示す。

<日本書紀>

<カルメン>

() 語句の言い替え・補足説明や、年号の併記などを示す。

す。

病変米(黄変米)

燃料ガス(都市ガス)

慶長年間(1596~1614)

1872年(明治5)

() 読みがなであることを示す。

石川啄木(たくはく)

伊豆(いず)半島

香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では、次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし、必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm ²	平方センチメートル	W	ワット
m ²	平方メートル	kW	キロワット
km ²	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm ³	立方センチメートル	km/秒(分, 時)	速さ
m ³	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	°' "	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁 田中一光

特別大項目目次 第10巻

保	険	12(ページ)	慶応義塾大学教授	庭田 範 秋
ホワイトカラー		72	早稲田大学名誉教授 早稲田大学助教授	武田 良 三 佐藤 慶 幸
盆	栽	76	《盆栽世界》編集長	村田 圭 司
蒔	絵	96	東京国立博物館工芸課 漆芸室室長	荒川 浩 和
マーケティング		104	明治大学教授	清 水 晶
麻	薬	142	元厚生省薬務局 麻薬第一課課長	吉崎 三 男
民 主 主 義		250	拓殖短期大学教授	木 暮 正 義
民	族	253	文化人類学者	原 ひ ろ 子
民 族 音 楽		254	武蔵野音楽大学講師	山 口 修
室 町 時 代		284	共立女子短期大学講師	鈴 木 英 雄
明 治 時 代		292	元東京大学史料編纂所	安 達 淑 子
メガロポリス		300	東海大学講師	竹 内 泰 夫
モダン-アート		340	東京国立近代美術館事業課長	三 木 多 聞
養	殖	474	東京水産大学講師	三 浦 昭 雄
予	算	490	電力中央研究所	西 野 義 彦

ほく

ホーク [Hawk] アメリカ製の地対空誘導弾。自衛隊でも装備している。移動可能な三連装ランチャーに乗った中低空目標用の野戦型ミサイルで、NATO軍でも使用している。誘導はレーダー・ホーミング装置を内蔵する自己誘導方式。

ボーグ [Vogue] フランスの服飾流行雑誌。アメリカ版(年間20回発行)・フランス版(10回)・イギリス版(16回)・イタリア版(11回)などがある。それぞれの国に合わせて個性的な編集を行ない、最新のファッションの動向を知るのに好適である。

ポーク [James Knox Polk] (1795～1849) アメリカ合衆国の政治家。第11代大統領。在任1845～1849年。ノースカロライナの生まれ。テネシーに移り弁護士を開業。州議会議員から1825年連邦下院議員となり、ジャクソン派民主党員として活躍。1839年テネシー州知事。1844年大統領選挙にダークホースとして指名され、マニフェスト・デスティニーによる領土拡張を説いて当選。すでに独立していたテキサスを併合、これに続くアメリカ・メキシコ戦争でカリフォルニア・ユタ・ニューメキシコを獲得する一方、その全土の領有を主張した。オレゴンでは北緯49度線を国境とすることでイギリスと妥協した。ここにアメリカは大西洋から太平洋に至る大陸国家をほぼ完成させた。ポークはその他、関税引き下げ、独立国庫制度の再建にも努めた。〔折井一彦〕

ほくえいこう 【朴泳孝】 (1861～1939) 朝鮮、李朝(りちょう)末期の親日的な政治家。号は瓢船(ひょうせん)。1882年、壬午(じんご)の変(→京城事件)後の修信使として金玉均らとともに日本に派遣され、開化思想の影響を受けた。帰国ののち、事大党と争い、1884年甲申の変を起こして失敗、日本に亡命した。1894年日清(にっしん)戦争勃発(はつぱつ)とともに内務大臣として返り咲いたが、翌年の三国干渉を契機として失脚、再び日本に亡命し、日韓(にっかん)併合後侯爵になった。

〔勝村哲也〕

ほくえつせつぷ 【北越雪譜】 鈴木牧之(ぼくし)による雪の博物誌。全7巻。1835～1842年(天保6～13)刊。雪の性質・形状、雪国の風俗・習慣など越後(えちご)(新潟県)の雪に関するすべてを詳説し図示したもの。牧之は越後の豪雪地塩沢の人で、文雅を愛好し遠近の文学者と交渉があったが、本書出版に際しても山東京伝・蜀山人(しよくさんじん)・滝沢馬琴・岡田玉山・十返舎一九らに助力を求め、京伝の弟京山によって公刊されるに至った。その間30余年を費やしている。

〔渡辺守邦〕

ほくえん 【北燕】 中国、五胡(ごこ)十六国の一。409年、漢人の馮跋(ふうはつ)が、後燕を滅ぼして遼寧(りょうない)省の龍城(りゅうじょう)に建てた国。黄龍国ともいう。第2代皇帝馮弘(ふうこう)(跋の弟)は、436年、北魏(ほくぎ)の攻撃を受けて高句麗(こうくり)にのがれたが、438年高句麗王に殺された。

ボー-グエン-ザップ [Vo Nguyen Giap] (1912～) ベトナム民主共和国(北ベトナム)の政治家。クアンビン省の生まれ。ハノイ大学卒業。1930年インドシナ共産党創立に参画。第2次世界大戦中に抗日ゲリラを組織。1945年ベトナム民主共和国独立とともに内相となり、1946年国防相、1947年人民解放軍最高司令官、1951年党政治局員となる。1955年副首相兼国防相となり、その現代ゲリラ戦の理論と実践は毛沢東・ゲバラと並ぶものとして有名。

ほくおうがくは 【北欧学派】 スウェーデンにおいて形成された経済学説をさし、スウェーデン学派ともいう。動態経済学の創始者としてのスウェーデンの経済学者ウィクセルに始まり、ダビットソン・ミューダール・オリーン・ルンドベルクらがその代表者である。この学派の特質はウィクセルの理論を動態的に発展させたことにあり、さらにその中に実践的理論の展開が含まれていることで、理論の中に価値判断を含むのではなく、実践的目的を達成するために有用な理論を樹立することを目的としていた。これは、その後の経済理論のあり方に一つの重要な方向を示唆するものとして、学説史的に意義を有している。〔藤枝省人〕

ほくおうご 【北欧語】 インド-ヨーロッパ語族ゲルマン語派北ゲルマン語群に属する言語。狭義には、北欧3国の国語をさす。スウェーデン人850万、デンマーク人450万、ノルウェー人400万によって話されるばかりでなく、フィンランドでもスウェーデン語を母国語にする者があり、グリーンランド・フェール諸島では公用語としてデンマーク語を用いる。ノルマンジーやイギリスに残る人名・地名はバイキング時代の北欧語地域を示しているが、今日では南スレスビーの3,000に近い人々はドイツ語・デンマーク語の両語を話す。北欧語は古代共通北欧語にさかのぼり、それはルーナ刻文にみられ、また最古の文学はアイスランドで書かれている。のち東西に分かれ、前者にスウェーデン-デンマーク語、後者にノルウェー語が属していたが、さらに1200年ごろデンマーク語はスウェーデン語より分かれた。

現代のスウェーデン語やノルウェー語はその音楽的な語調と明瞭(めいりょう)な発音をもつ美しいことばであるのに反し、デンマーク語は多くの不明瞭な子音と閉鎖音をもち、語の後半は口中に飲み込まれて聞きにくいというえに、発音と綴字(てつじ)の極度の不一致となった。北ヨーロッパの人々は自国語をそれぞれ用いれば相互の了解は可能であ

るが、1814年デンマークはノルウェーを喪失し、ノルウェーでは19世紀半ばからこれまでの公式書きことばデンマーク語に代わるべき新国語への運動が起こり、二つの国語となって対立した。

一般に、ドイツ語の影響を最も受けているが、その特徴を2～3あげれば次のようである。アルファベットには英語のそれ以外にスウェーデン語にå・ä・øが、デンマーク語・ノルウェー語にå・æ・øが加わる。名詞には共通性と中性があり、定冠詞は語尾に置かれ(—en —n, —et —t), 受動態は動詞に—sを加えて表わすこともできる。人称や数による動詞の語尾変化はデンマーク語・ノルウェー語およびスウェーデン語の口語にはない。語順は重要で、一文中、文頭に主語以外の部分が置かれると主語は動詞のあとに来る。また、否定語の位置は一定せず、主文か従文かにより、またほかの理由で異なる。〔岡田令子〕

ほくおうしんわ 【北欧神話】 北欧を中心に伝わるゲルマン民族の神話。ギリシア神話とともにヨーロッパの二大神話とされる。古代ゲルマン民族に共通の多神教的信仰に基づく神話は、キリスト教の伝播(でんぱ)とともに、ドイツ・イギリスにおいては歪曲(わいきょく)されて原形をとどめなくなったが、孤島アイスランドの北方ゲルマン(ノルマン)の間では、キリスト教流布後も異教神が栄え、《エッダ》などの古代北欧の詩集によって忠実に保存された。

【世界の形態】 世界は8または9の部分からなり、特に重要なのは天にある神々の国〈アスガルド〉、世界の中心にある人間界〈ミッドガルド〉、その外側の巨人の国〈ヨトゥンヘイム〉、地下の冥府(めいふ)〈ヘル〉などで、天と地をつなぐ虹(にじ)の橋ビフロストがある。

【おもな神々】 アサ神族とバナ神族の2系列があり、前者は動的で侵入民族を、後者は静的で原住民族を、また巨人は自然の暴力を象徴するものと考えられる。アサ神族には主神のオーディン、その妻で結婚の女神フリッグ、雷神トール、軍神ティールが属し、バナ神族には航海と富の神ニョルド、そのむすこで大地の豊饒(ほうじょう)と平和の神フレイ、また娘で愛の女神フレイが属する。このほか、神と巨人の混血で二重性格をもつ神ロキが特異な役割を占めている。

【天地創生・没落・再生】 《古エッダ》の巻頭の〈巫女(みこ)の予言〉には、天地創生から神々の没落と再生に至る北欧神話の全容が語られている。大昔、世界はなににもないがらんどうであったが、巨大な深淵(しんえん)ギムンガ-ガップの中から人間の形をした霜の巨人イミールが生まれ、そのわきの下や股(また)の間からむすこ・娘が生まれたが、みな邪悪であった。イミールが乳を飲んで育った巨大な雌牛アウドムラのなめていた岩から、ある日美しくたくましい神がひとり生

まれた。彼のむすこガボルは巨人の娘ベストラをめとって3人のむすこを生んだ。これがオーディン・ヘニール・ロウドルの3兄弟の神で、力を合わせてイミールを殺す。その血におぼれて巨人はみな死ぬが、ベルゲミルという巨人夫妻だけが石臼(いしうす)の上に上がって助かり、この夫妻が始祖となり再び巨人の一族が生まれ、神々への復讐(ふくしゅう)を期す。3人の神は、イミールの屍(しかばね)を深淵の中央にすえて大地とし、頭蓋骨(ずがいこつ)を天とし、南の炎熱の国から飛んでくる火花をとって日・月・星とした。彼らはまた海べに漂ってきたニレとトネリコの木から人間の男女をつくった。もと巨人の一族だった神ロキは巨人の女と契って、大女とヘビとオオカミを生むが、オーディンは大女を地中深くうずめ、ヘビを海中に投げ込み、オオカミを魔法の紐(ひも)でつなぐ。ロキはこれを恨み、オーディンの愛児である光明の神バンドルを術策を弄(ろう)して殺す。神々は怒り、光明を失った世界は寒気と不信に閉ざされて最後の日が迫る。やがて神々は魔軍をイダの野に迎え撃つが、神神は倒れ、大地は海中に没する。しかし再び海から新しい緑の大地が浮かび上がり、滅びの火をのがれた少数の神とヘルからもどったバルドルがそこに住み、日も月も新しく生まれ、生き残ったふたりの人間は再び人類の祖となり、幸福と平和の年が訪れる。〔鈴木徹郎〕

ほくおうぶんがく 【北欧文学】 スウェーデン・デンマーク・ノルウェー・フィンランド・アイスランドの文学を一括した総称。ゲルマンの神話・伝説をもとにした古代・中世の《エッダ》《スカルド詩》《サガ》などの文学が、アイスランドを中心に14世紀ごろまで栄えたが、1000年ごろにイギリス・ドイツから伝播(でんぱ)したキリスト教の勢が増すにつれて衰え、古代北欧語の言語分裂から宗教改革後の文学語が確立されるまでは、スウェーデンの聖ビルギッタの《天の啓示》を除いて、みるべきものがなかった。15世紀ごろから新教布教のためにスウェーデンのペトリ、デンマークのペーデルセン、フィンランドのアグリコラらが《新約聖書》を北欧語に訳し、いずれも自国の文学語の基礎を築くのに役だった。ただしノルウェーのみは宗教改革から400年の暗黒時代を迎え、19世紀後半にオーセンらによってノルウェー語が復興するまで文学語は生まれなかった。19世紀のデンマークのホルベアに始まる近代文学はドイツ浪漫派の影響を受けた浪漫主義時代にはいるに及んで、いわゆる《黄金時代》が開幕する。デンマークのエーレンシュレーガー・インゲマン・ハイベア・アンデルセン、スウェーデンのテグネール・アッテルボルム・アルムクビスト・リュドベリイらがこの時期の作家として記憶される。続いてストリンドベリイ・ブランデス・イプセンらによる自然主義時

代、さらにその反動の新浪漫主義時代にはいる、スウェーデンのヘイデンスタム・ラーゲルレーブ、デンマークのヨハネス・エウル・イェンセン・ポント・ビダン・ハムスンらが現われた。暗黒時代のノルウェーでは、ホルベアをはじめ多くの作家がデンマークに移住してデンマーク語で文壇に活躍し、やがて《ノルウェー会》を結成、ノルウェー文学復興の布石となった。フィンランドでは、レンロートの《カレワラ》編纂(へんさん)よりしだいにフィンランド語の文学が勃興(はつこう)し、アレクシス・キビが出るに及んでその基礎が定まった。アイスランドは、1944年独立以来ようやく文学活動が始まり、トウロッドセン・ラックスネス・ベネディクトソンらが出た。その他20世紀にはいつてからの著名な作家として、スウェーデンにラーゲルクビスト・ダーゲルマン・リドマン、デンマークにネクセ・カレン・ブリクセン、ノルウェーにキンク・ドゥーン・ファンゲン・サンデムーゼ、フィンランドにシランペーらがいる。〔鈴木徹郎〕

ホークオツ 【火鍋子】 中国で冬の季節料理として愛好される五目寄せなべ。わが国でも広く知られる。地方によって多少の差があるが、肉・野菜・海産物など各種の材料をすき焼きのように追加しながら、大ぜいで食べる。なおこの料理をつくるなべも火鍋またはこの名でよばれる。中央に筒状の煙突があり、その中に炭火を入れてまわりの材料を煮るようになっていて、真鍮(しんちゅう)・アルマイト・銀などでつくられる。→中国料理(図) 〔曾根喜和子〕

ほくか 【墨家】 →墨子

ほくかん 【北漢】 中国、五代十国中の一国(951～979)。劉崇(りゅうすう)・承鈞(しょうこん)・繼思・繼元の4世。太原を根拠地とし山西中部以北を領有。五代の後漢が後周に滅ぼされると、その一族劉崇は契丹(きったん)の後援で独立政権を建てた。10国中最も弱少な傀儡(かいらい)政府であったが、宋(そう)はこれを対契丹の緩衝地帯として利用。他の9国を統一してはじめて滅んだ。

ほくぎ 【北魏】 鮮卑族拓跋(たつばつ)部が華北に建てた王朝。3世紀半ば内モンゴルの和林格爾(はりんくる)地方に勢力を張っていた拓跋部は、当時彼らを利用して北辺の安寧を図ろうとした西晋(せいしん)から山西北部の地を与えられ、君長拓跋猗盧(い)は代王に封ぜられた。西晋が滅ぶと、386年代王拓跋珪(けい)は建元して登国元年と称し、国号を魏と定めた。史上、これを北魏または後魏・元魏とよぶ。珪(道武帝)は後燕(こうえん)を破って河北省一帯をとると、都を平城(山西省大同)に定め皇帝を称した。そののち北魏は宋(そう)を攻めて河南の地をとり、五胡(ごこ)諸国を滅ぼし、439年江北を統一した。494年孝文帝は都を洛陽(らくやう)に移し、胡服胡語を禁じ、胡姓を漢風に改め、帝室も拓跋氏を元氏と改め、北族と中国名族の通婚

を勧めた。これより北魏の学術文化は大いに発達したが、一面素朴尚武(そぼくしょうぶ)の風はすたれ、下層北族出身者の不遇賤民(せんみん)化が増大した。523年北鎮の北族下級武官らの不満が爆発、騒乱が継起し、北魏は鄴(ぎょう)を都とするいわゆる東魏と、長安を都とするいわゆる西魏に分裂、その実権はそれぞれ宰相高歡・宇文泰に帰し、やがて550年高氏の齊朝(せいちょう)(北齊)が、556年宇文氏の周朝(北周)が成立し、東西両魏は滅んだ。北魏が、全国の民を、5家を1隣、5隣を1里、5里を1党に組織し、隣長・里長・党長に戸籍作成・租税徴収などを行なわせた三長制、またこれを基礎として人民に田土を収授した均田法は史上有名である。〔内田吟風〕

ほくげん 【北元】 中国、明(みん)初にモンゴルの開平(上都)地方に退いた元の残存勢力(1368～1388)。元の末帝順帝の子アユルシリダラ(昭宗)とその子トグス・テムールは宣光・天元の年号を建て、勢力回復を図ったが、明の攻撃と離間策によって朝政は崩壊し、1388年トグス・テムールが臣下に殺されて滅びた。

ボクサー 【boxer】 イヌの一品種。ドイツ産の短毛の中形犬で、軍用・警察・番犬などに用いられる。吻(ふん)は角張り、鼻は後退していかめしい。体高は53.3～61cmほど。顔貌(かんぼう)が拳闘家(けんとうか)に似るところからこの名があるという。

ほくし 【牧師】 プロテスタント教会における教職者。カトリック教会の神父に対する。按手礼(あんしゅれい)(カトリックの叙品に相当)をもって任職された正教師のうち、教会の牧会または伝道の責任者に任ぜられたものをいい、宣教教師・神学教師・教務教師・巡回教師とは区別される。なお、この名は《新約聖書》の《エペソ人への手紙》(4の11)に由来し、ギリシア語で《ヒツジ飼い》の意。信者をヒツジの群れにたとえているのに対応している。〔石井忠厚〕

ほくし 【墨子】 (BC480?～BC390?) 中国、戦国時代の思想家。名は翟(てき)。宋(そう)の人。また、彼と彼の学派の論集を《墨子》とよび、現存53編。墨翟は血縁に基づく利己的団結や権力による侵略的支配を、一般人民の立場から否定して、《兼愛(無差別の愛・利)》と《非攻(侵略反対)》を主張し、平等な万人の質素な生活と勤労、賢者のもとにおける規律ある団結を説いた。墨翟は実際の侵略戦に対抗する集団をもち、彼自身は《巨子》とよぶ団長で、仲間を《俠(きょう)》によって結ばれた、と伝えられる。この戦闘的な学派集団を《墨家》とよび、諸子百家の一つである。《墨子》によれば、彼らは侵略抵抗戦や労働に必要な技術を開発・学習し、また、初歩的な物理学や論理学をもつ《別墨》とよぶグループをもっていた。墨家の兼愛主義は当時儒家の家族中心主義と対決したが、また道家の楊朱(ようしゅ)の《為我

(自己中心)説と対立した。秦(しん)・漢帝国権力の成立後も、墨家の俠の精神はむしろ民間に伝わっていった。〔西 順蔵〕

ホクシャ ⇨ フクシャ

ほくしゅう 【北周】 中国南北朝の一王朝(556～581)。北魏(ほくぎ)が東西両魏に分裂すると、西魏の実権は宰相の宇文泰(うゐんたい)に帰し、その子覚(孝閔帝(こうびんてい))は西魏の譲りを受けて周朝(北周・後周)を建てた(556)。国都は長安。宇文氏は鮮卑化した匈奴(きょうど)の出身で、重臣層にも匈奴・鮮卑出身者が多く、朝廷で胡俗(こぞく)・鮮卑語が行なわれる場合もあったが、一面古(いにしえ)の周朝を重んじて《周礼(しゅうらい)》によって官制を立て、さらに法令(大律)を定め、府兵制度などの新制度も施行して国力を養い、577年北齊(ほくせい)を併合した。しかし、外戚(がいせき)の楊堅(ようけん)(隋(ずい)の文帝)に国を奪われ、5主26年で滅んだ。〔内田吟風〕

ほくしゅう 【北州】 清元の曲名。正式には《北州千歳寿(ほくしゅうせんねんのことぶき)》という。演奏専門曲(お座敷浄瑠璃(じようるり))。川口お直作曲、蜀山人(しよくさんじん)作詞。1818年(文政1)開曲。遊里吉原(よしわら)(北州)をたたえためでたい曲で、三下がり(さんげり)でさえ明るい表現となっている。のちに踊りもつけられ、素踊りとして演じられることも多い。

ほくじゅう 【墨汁】 多量の墨の汁(しる)を容器に入れるなどして使用するもの。前日にすった墨は宿墨(しゆくもく)といって、書家はこれをきらい。しかし、中国宋(そう)代から拓本(たつぽん)が行なわれるようになると、一時に多量の墨を用いるので、拓工は破片になった墨を水につけておいて使った。清朝(しんちよう)になると墨盒(もくご)という白銅の小さな方形や円形の容器をつくり、綿を入れてこれに墨をしみこませて使用した。これは現在でも墨つばや矢立てとして一部に用いられている。わが国でも手習い用の開明墨という墨汁が一般に流行しているが、黄色の油がにじみ出るので使いよくない。〔杉村勇造〕

ほくしゅうが 【北宗画】 南宗画(なんしゅうが)に対する中国絵画の画風概念。的確な鈎勒(こうりく)と硬質な筆墨法によって寒厳な北方の風土を写す山水画面に代表され、歴代の画院の主流を占めた。唐の李(り)思訓(しきん)らを祖とし、北宋(ほくそう)の李成(りせい)・郭熙(かくき)らが大観的で自然の驚異的な大きさを写そうとする大画面や画卷形式の中に典例を打ち出した。南宋になると、馬遠(ばえん)・夏珪(かけい)・梁楷(りょうかい)ら画院の画家たちが、自然の截辺(せつぺん)をとる小画面形式の中に象徴的で詩意や禅機を含む空間をつくりだし、わが国の鎌倉・室町以降の漢画画風に決定的な影響を及ぼした。わが国で最も重視された〈宋元画〉は、主として南宋・元の北宗画ふうのものであったが、牧谿(もくけい)や玉潤(ぎよくかん)らは北宗画に南宗画風を合わせた理想的な画風であった。〔中島純司〕

ほくしょう 【墨象】 書を書く用具・用

材を用いて、自由に造形された形象を書くこと。書は文字を書くことである。文字を書くという制約があると、それに縛られて自由な表現ができない。また、毛筆を用いて文字を書くことは現代人の日常生活とはかけ離れてしまっている。それで、自由な芸術的造形として墨象が生まれたのである。墨象の歴史は浅いので、その限界ははっきりしていない。新しい書法によって文字を書くのを前衛書道といい、文字を書かない、文字以外の形象を書くのを墨象といって、両者を区別する人もあり、また墨象も前衛書道と考えている人もいる。墨象は第2次世界大戦後から盛んになり、年とともに盛んになっている。それにいろいろな新しい用具・用材を用いて自由に書くようになり、一部では絵の具を用いて抽象絵画に接近しているものもある。➔前衛書道〔春名好重〕

ボクシング [boxing] 格闘技の一種。所定の競技台(リング)の上で、2人の競技者が皮製のグローブをはめた拳(こぶし)で打ち合い、勝敗を競う。拳闘(けんとう)ともいう。

【歴史】 ボクシングはこの世に人類が出現したのと同時に発生した。外敵に対する自己防衛の手段として拳を武器に戦う方法が考えられ、これを基本にして進展したのがスポーツとしてのボクシングである。ギリシア神話の中にアゼンスの王子セーセアスがボクシング術を行なったと伝えられているのが最古の資料とされている。しかし、その後メソポタミアの発掘調査でBC1700年のものと思われるボクシング競技場面の碑が発見されている。ボクシングが古代オリンピックの参加種目となったのは第23回大会(BC688)からである。当時は体重別のクラスもなく、素手に皮ひもを巻くだけのそまつなものであった。試合は一方が闘争力を失うか試合放棄の意志表示をするまで続けられた。古代オリンピックにおいてのボクシングは、中期までアマチュアリズムに立脚した人間性のあるものだったが、後期にはいると奴隷が主人の命令で強制参加させられ、その勝者に賞金がかかるようにプロ化してきた。このためキリスト教徒からの突き上げで404年ローマ皇帝のホノラ

スがボクシング禁止令を公布した。その後約1,200年間ボクシング競技は中絶されたが、実際には武器を持たない素手の護身術としてひそかに伝えられ、16世紀にゲルマン人の手によってイギリスに移入され、ここで再び息を吹き返した。イギリスではプライズ・ファイト(懸賞拳闘)として発展し、1719年初代チャンピオンのフィッグが世界初の拳闘学校を創設し、現代へのスタートを切った。当時も素手で相手が立てなくなるまで戦ったが、1743年に5代目チャンピオンのブロートンが7か条のルールとリングを規定し、現代ボクシングに一步近づいた。

スポーツの形態を備えて発達したイギリスのボクシングは、植民地アメリカ大陸に伝えられ、やがてイギリスを追い抜いてボクシング王国を築くことになる。当時はまだ素手の拳闘(ベアナックル)だったが、1865年にイギリスのクインズベリー侯がアマチュア体育クラブを創立し、同時に12か条のルールを設けてともすればスポーツの域から脱しやすいボクシングの欠点を改めた。これをクインズベリー・ルールといい、現在全世界で実施されているボクシングルールの原典となっている。近代ボクシングが発達するとともにアメリカ合衆国がイギリスにとってかわって世界のボクシング界をリードしたが、第2次世界大戦後は中央アメリカ・南アメリカ・東洋などの台頭が著しい。

わが国において最初のボクサーは元幕内力士の浜田庄吉(しょうきち)である。1884年(明治17)アメリカ合衆国に渡ってボクシングやレスリングを学び、帰国後、1888年浅草で日米対抗試合を行なった。1896年斎藤虎之助(とらのすけ)が横浜で拳闘術指南の看板を掲げたり、1900年桜田幸次郎が《攻防自在西洋拳術》という初の拳闘書を出版したりしたが、いずれも一般に受け入れられるところまではいかなかった。その後1907年ごろ柔道と拳闘の対抗試合が行なわれている。1914年(大正3)アメリカでボクサーとして活躍した渡辺(わたなべ)勇次郎が帰国してボクシングの普及に乗り出し、同年12月25日東京目黒に日本拳闘倶楽部(クラブ)を創立するに至っ

ボクシングの階級と体重

アマチュア	単位 kg	プロ	単位 ポンド(kg)
モスキート級(ジュニアのみ)	45以下	フ ラ イ 級	112(50.80)以下
ラ イ ト - フ ラ イ 級	48 "	バ ン タ ム 級	118(53.52) "
フ ラ イ 級	51 "	ジュニア-フェザー級	122(55.34) "
バ ン タ ム 級	54 "	フ ェ ザ ー 級	126(57.15) "
フ ェ ザ ー 級	57 "	ジュニア-ライト級	130(58.97) "
ラ イ ト 級	60 "	ラ イ ト 級	135(61.23) "
ラ イ ト - ウ ェ ル タ ー 級	63.5 "	ジュニア-ウェルター級	140(63.50) "
ウ ェ ル タ ー 級	67 "	ウ ェ ル タ ー 級	147(66.68) "
ラ イ ト - ミ ド ル 級	71 "	ジュニア-ミドル級	154(69.85) "
ミ ド ル 級	75 "	ミ ド ル 級	160(72.57) "
ラ イ ト - ヘ ビ ー 級	81 "	ラ イ ト - ヘ ビ ー 級	175(79.38) "
ヘ ビ ー 級	81以上	ヘ ビ ー 級	175(79.38)以上

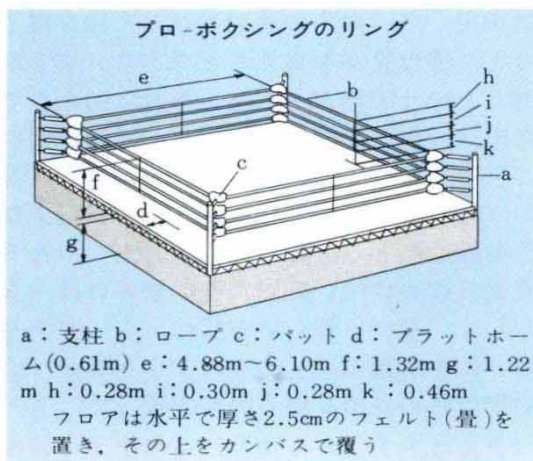
て日本ボクシング界が正式に発足した。1952年(昭和27)に日本ボクシングコミッションが創設され、同年フライ級の白井義男^{*}(はし)が日本人初の世界チャンピオンの座につく偉業を成し遂げた。現在では軽・中量級に幾人も世界チャンピオンを輩出し、選手層も世界的レベルに達して厚い。

アマチュアは大正末期までに日本アマチュアボクシング連盟と日本学生ボクシング連盟が結成され、1928年の第9回オリンピックアムステルダム大会にはじめて選手を派遣した。1950年には世界アマチュアボクシング連盟(AIBA)に加盟。1960年の第17回ローマ大会にはフライ級の田辺清が日本初の銅メダルを、1964年第18回東京大会では桜井孝雄^(たかお)がバンタム級で金メダルを獲得している。

【競技方法】ボクシングは体重別によって各クラスに分けられ、これは世界共通である。プロの場合は11階級(日本・東洋はジュニア-フェザー級が加わり12階級)、アマチュアは10階級(日本ではライト-フライ級が加わり、ジュニアの部はさらにモスキート級が加わる)に分かれている。試合は同じクラスに属するボクサーどうしによって行なうことを原則とし、計量はプロ・アマチュアとも試合の8時間以前に行なう。

試合の1ラウンドは3分間とし、各ラウンドの間に1分間の休憩を置く。アマチュアは3回戦(ジュニアは1ラウンド2分)だけだが、プロは4・6・8・10・12・15回の6種類があり、日本タイトル戦は10回戦、東洋タイトル戦は12回または15回戦、世界タイトル戦は15回戦と決めている。

審判員の構成はプロは1人のレフェリーと2人のジャッジからなるが、アマチュアは1人のレフェリーに5人または3人のジャッジで行なう。ただしアマチュアの場合レフェリーは採点しない。採点はプロが5点法ないし10点法で、アマチュアは20点法で統一している。また採点基準ではプロの場合ダウンを重要視するが、アマチュアでは単なる有効打としてしか評価しない。試合判定の分類は、①判定(審判員の採点で勝敗が決定した場合)、②引き分け(採点結果で勝敗がつかない場合)、③ノックアウト(KO)(有効な加撃によるダウンで試合続行ができないとき、あるいは1ラウンド中に3度のダウンがあったとき)、④テクニカルノックアウト(TKO)(負傷のため試合続行が不可能とレフェリーが判断した場合)、⑤反則(故意のファウルでレフェリーが失格を宣した場合)、⑥無効試合(天変地異・八百長(やちやう)・双方失格となった場合)などがあるが、アマチュアではテクニカルノックアウトをRSC(レフェリーストップコンテスト)とよぶほか、棄権・失格など独得なものがある。また反則行為に対してはプロの場合、警告または減点となるが、アマチュアは警告3回で失格となる。



ボクシング (上)アマチュアの試合 第19回オリンピック-メキシコ大会バンタム級の韓国(右)対ソ連戦 1968 (下)プロの試合 世界ヘビー級タイトルマッチのクレ(赤色のトランクス)対フレージャー戦 1971



朴正熙

【競技施設と用具】リングの規定は、別図参照。照明は4kW以上であること。ロープはプロが4本、アマチュアが3本。グローブは、プロが6オンス(ウェルター級まで)、8オンス(ミドル級以上)で、皮革の部分の重さは、内部の詰め物の重さより軽くなくてはならない。アマチュアは8オンスだが、ジュニアの場合12オンスのグローブを使用。バンテージはプロでは幅5cm、長さ9.14m(アマチュアでは2.5m)以下の柔らかい布を

巻き、粘着性テープ(アマチュアはばんそうこう)で安定させることができる。スパイクのない柔らかいくつをはき、股下(またした)15cm以上のトランクスを着用する。また、下腹部保護のためにノーファウルカップをつけ、マウスピースも使用(アマチュアは自由)する。上半身はプロは裸だが、アマチュアはランニングシャツを着用しなければならない。 [細谷正勝]

ほくしんじへん 【北清事変】⇒義和団の乱

ほくしんろん 【北進論】 朝鮮・満州・蒙古(もう)・シベリアなど北方大陸への進出の主張。古くは征韓論^{*}(せいかんろん)に始まる。経済的侵略を主とする南進論に比し軍事的色彩が濃い。日清(にっしん)・日露(にっろ)戦争により大陸に足場を得たのちは、満洲・蒙古の権益強化を主張。第1次世界大戦後はしだいに反ソ・反共イデオロギーと結びつくが、やがて資源獲得の意味を強調する南進論におされていった。

ほくせい 【北齊】 中国、南北朝の一王朝(550~577)。北魏(ほくき)が東西両魏に分裂すると、東魏の政権はその宰相高歓の手に帰した。歓の子高洋のとき、東魏の孝静帝に迫って国を譲らせ、齊朝を建てた。史上、北齊あるいは高齊という。国都は鄴(ぎょう)(河北省磁県)。高氏は鮮卑(または鮮卑化した漢族)の出で、重臣層にも北族軍人の出身が多かったが、法制などはほとんど北魏のそれを踏襲した。国土は河北平野を中心に華北に広がり、一時北周・陳を圧したが、のち暗主が続いたため政治が乱れ、北周に攻滅された(577)。6主28年。[内田吟風]

ほくせいき 【朴正熙】 パクチョンヒ (1917~1979) 韓国(かんこく)の大統領。陸軍大将。慶尚北道(けいしょうほくどう)の人。満州軍官学校卒業後、日本の陸軍士官学校を卒業(1944)し、関東軍に編入された。以後、韓国国防軍にいて、1961年5月、軍部クーデターを指導し、7月に最高会議議長。1963年民政移管に際して民主共和党総裁となり、大統領に選出され、1967年再選、1971年三選された。

ほくせき 【墨跡】 中国の宋(そう)・元およびわが国の鎌倉時代から江戸初期までの禅宗の高僧の筆跡。主として法語・偈頌(げじゆ)・印可状・道号・書状などで、書跡としてもすぐれているが、むしろ高僧の筆跡であるから尊重され、とりわけ茶室の床の掛け物として愛用されている。宋の圓悟克勤(えんごくきん)・大恵宗杲(たいえそうこう)・虚堂智愚(きどうちゆ)・元の古林清茂(くりんせいも)・月江正印・中峰明本(ちゅうほうめいほん)・了庵(りやうあん)清欲、来朝僧の蘭溪(らんけい)道隆・無学祖元・一山一寧、わが国の宗峰妙超(そうほうめうしやう)(大燈国師)・一休宗純らの墨跡は特に尊重されている。[春名好重]

ほくそう 【牧草】 茎や葉を飼料とする目的で栽培する草類。元来家畜の飼料に用いられた野草のうちから、家畜の好みに適し、また栄養価や収量の高いものを選んで

改良したものである。牧草となる条件は、葉がよく繁茂すること、栄養価が高く、家畜の嗜好(しう)に適すること、種子を多く採取できること、植物体の再生力が強く不良な環境でも強健であることなどである。牧草の種類はきわめて多いが、その大部分はイネ科とマメ科である。牧草は生存期間により、一年生のもの、数年～10数年にわたって生育する多年生のもの、およびこの両者の中間にあたる2～3年間生育する短年生のものなどに区別される。利用上からは刈り取りに適する種類と放牧に適するものとに分かれる。〔勝木辰男〕

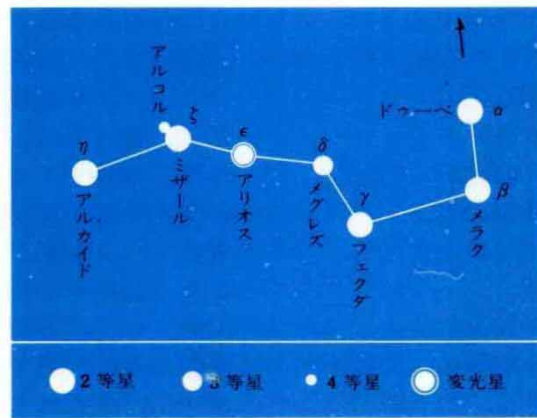
ほくちょう 【北朝】 南北朝時代、吉野(よしの)(奈良県)にあった大覚寺統^{*}の南朝^{*}に対し、京都にあって室町幕府に擁立された持明院統^{*}の朝廷。光明・崇光(すう)・後光厳(こうごん)・後円融の歴代天皇を経て、1392年(元中9・明德3)後小松天皇のとき、南北朝合一が行なわれ、以後北朝系の皇統が継承して現在の皇室に至っている。

ほくとうが 【木蠹蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ボクトウガ科の一種および科の総称。体長40mm内外で、翅(はね)を広げた長さ34～74mm。黒かっ色のじみながで、雄の触角は扁平(へんぺい)。成虫は6～9月に燈火に飛来し、幼虫はナラ・クヌギなどの幹にはいつて食害する。北海道・本州・九州に分布する。ボクトウガ科は翅を広げた長さ35～180mmの中形ないし大形のがで、灰色またはかっ色。ほぼ世界じゅうに分布しているが、熱帯・亜熱帯に特に多く日本に4種を産する。成虫は口吻(こうふん)を欠き、夜行性で燈火に飛来する。翅は原始的翅脈をもち、静止時には背部にたたまれる。幼虫は樹木の害虫で、木の幹内にトンネルを掘って生活する。〔多々内修〕

ほくとうきたん 【湊東綺譚】 永井(ながい)荷風の長編小説。1937年(昭和12)《朝日新聞》に連載。老作家大江匡(ただす)は小説執筆の下調べを兼ねて玉之井私娼窟(ししょうくつ)を散策、偶然会ったお雪に昔日の花柳界のおもかげをみるが、自分にひかれていくお雪の心の変化を知り、ひそかに別れる。軍国的風潮への鋭い批判や克明な調査に基づく詩情豊かな風俗描写にささえられた随筆ふうの傑作。

ほくとしちせい 【北斗七星】 おおくま座のうちひしゃく形に並んだ七つの星。柄に近い側のますの部分にあたるδ星(3等)を除いて他はみな2等星である。ますの外側にあたるβ星とα星を結んで延長すると、約5倍の距離に北極星があり、昔から北極星を捜すのに用いられている。

ほくとつぜんう 【冒頓单于】 (?～BC 174) 匈奴(きょうど)第2代の单于(王)。父の頭曼(とうまん)单于を殺して即位、東胡(とうこ)・月氏を撃破し、ゴビ砂漠(さばく)以北のチュルク・キルギスなどの諸族をも従えて、北アジアに遊牧民族最初の大帝国を建設した。



北 斗 七 星

漢の高祖を平城(山西省大同付近)に包囲して屈辱的和議を結ばせ、西域を支配し、匈奴の全盛期を開いた。

ほくばつ 【北伐】 中国国民党による統一を完成するために行なわれた北洋軍閥^{*}打倒の戦争。1926年国民党の蔣介石(しょうかいせき)が国民革命軍総司令となって、広東(カントン)を出発し、短期間で揚子江流域まで進出した。その後国共分裂とともに蔣は共産党を弾圧した。1928年国民党に入党した閻錫山(えんしゃくざん)・馮玉祥(ふうぎよくしょう)らの協力を得て奉天派の張作霖(ちやうさくりん)を破り、北京(ペキン)を占領して北伐を完成した。

ほくめんのぶし 【北面の武士】 平安後期、院の北面で警備にあたった武士。〈院の北面〉〈北のおもて〉ともいう。1095年(嘉保2)白河(しらかわ)上皇により創設され、院中の警備のほか上皇の御幸に弓矢を帯して従った。平安後期に上北面と下北面に分かれ、上北面は四位、下北面は五・六位の者に任じた。院政をささえる重要な武力となった。なお、鎌倉時代には後鳥羽(ごとば)上皇が西面武士^{*}を設置した。

ほくようぎょぎょう 【北洋漁業】 オホーツク海やベーリング海などの、北太平洋北部の海域で操業する漁業の総称。母船式サケ・マス漁業、母船式カニ漁業、母船式引き網漁業のほか、北洋捕鯨などがあり、それらによる漁獲高は、スケトウダラをはじめとして日本の総漁獲に占める割合は高く、また商品価値も高いことから、日本漁業経済を支える主幹漁業となっている。

この海域は漁業生物が豊富で、アメリカ・ソ連・カナダなどの沿岸国では、自国の漁民の権益を守るため、また資源保護の立場から、旧海洋法時代の公海における漁獲規制も強く打ち出されていて、それらの国々との間には単独あるいは合同の漁業条約や漁業協定が結ばれ、その制限の下で漁業がなされてきた。新海洋法の論議の進展の中で、沿岸国は相次いで排他的な経済水域200海里を宣言、そのためにいわゆる公海は極度に狭められ、したがって1977年以降の北洋漁業は、その姿を全く一変してしまった。日本では自らが開拓したこの漁場で、伝統的に続けてきた漁業と漁民を守るため、そ

れぞれの国との新しい漁業協定を積極的に推進させ、従来からの漁業を続けてきている。しかし、漁獲割当量は大幅に縮小され、過去の実績を大きく下回っているのが実情である。今後の資源状態の変化によっては、さらにその量は減少を余儀なくされることになる。一部水域では漁船の大きさに応じた入漁料の支払いもなされている。

〔石野 誠〕

ほくようぐんぱつ 【北洋軍閥】 中国、中華民国初期の最大の軍閥。清(しん)末に袁世凱(えんせいがい)が育成した北洋新軍が私的軍団化し、辛亥(しんがい)革命の際、袁はその武力を背景に独裁政権を樹立して北洋軍閥が形成された。1916年袁の死後、安徽(あんき)・直隸両派に分裂、前者は日本と、後者はイギリス・アメリカと結んで互いに政権を争ったが、1924年の奉直戦争の結果政権は奉天派に移り、北洋軍閥時代も終わった。

ほくりくじどうしゃどう 【北陸自動車道】 国土開発幹線自動車道の一つとして計画中の高速道路。新潟市～米原(まいばら)市間約480kmで、北陸地方を縦断する。このうち1966年(昭和41)以降黒崎(新潟市西郊)～上越市および富山市～米原市間が日本道路公団によって工事施行中である。

ほくりくどう 【北陸道】 五畿(ごき)七道の一。〈くぬがのみち〉と読む。若狭(わかさ)・越前(えちぜん)(以上福井県)、加賀・能登(のと)(以上石川県)、越中(富山県)、越後・佐渡(以上新潟県)の7か国がこれに属する。

ほくりくほんせん 【北陸本線】 米原(まいばら)～直江津間の国鉄路線。営業キロ数353.9。ほかに、敦賀(つるが)～敦賀港間2.7kmの貨物支線1本がある。1884～1913年(明治17～大正2)開業。福井・石川・富山・新潟の諸県を縦断し、日本海岸沿いの裏日本縦貫幹線鉄道の一部を形成する。糸魚川(いといがわ)から大糸線、富山から富山港線・高山本線、高岡から氷見(ひみ)線・城端(じょうはな)線、津幡(つばた)から七尾線、金津から三国線、福井から越美北線、敦賀から小浜線などが分岐する。糸魚川以西の区間は交流、以東区間は直流電化されている。1955年(昭和30)以降この線の輸送力を強化するため、急勾配(こうはい)区間の解消と複線化・電化が推進され、柳ヶ瀬(やながせ)越え、杉津(すいつ)峠・倶利伽羅(くりから)峠などの急勾配区間はいずれも長大なトンネル(深坂・北陸・新倶利伽羅トンネルなど)を含む別線建設が行なわれた。また親不知(おやしらず)の難所も地すべりの災害を避けるため頸城(くびき)トンネルなどの一連のトンネルが設けられた。

〔青木栄一〕

ほくりょう 【北涼】 中国、五胡(ごこ)十六国の一。397年、匈奴(きょうど)の沮渠蒙遜(そきょうもんそん)が、漢人の段業を推戴(すいたい)して甘肅省の張掖(ちやうえき)に建てた国。沮渠蒙遜は401年段業を殺して帝位につき、南涼を滅ぼして412年姑臧(こさう)に遷都、421年敦煌

(とんこう)を攻めて西涼を滅ぼし、西域諸国との交通路を開いた。439年、第3代皇帝沮渠牧犍(ほくけん)のとき北魏(ほくぎ)に征服された。

ほくろ 【黒子】⇒春蘭(しゅんらん)

ほくろ 【黒子】〈こくし〉ともいう。皮膚に点在する豆粒大ぐらいまでの限局性色素斑(はん)。色は暗かっ色から黒かっ色で、大きなものは黒あざといわれる。色素細胞の異常によって、メラニン色素がたまるために生じ、周囲の皮膚面より多少隆起していることが多く、硬毛が密生していることもある。ほとんどの人に見られ、普通は幼児のうちに発生するが、遅れて発生したり、消失したりすることもある。まれに、ほくろから悪性黒色腫(しゅ)という悪性腫瘍(しゅよう)が生じる場合がある。

ぼけ 【木瓜】 双子葉植物・バラ科。中国原産の落葉低木で、日本には古く渡来し、観賞用に庭園に植えられる。茎は叢生(そうせい)して高さ1～3mになり、よく分枝し、短枝はときに棘状(とげじょう)になる。葉は有柄で互生し、長さ4～8cm、幅2～3cmの長楕円(ちようだえん)形で先がとがり、縁に細歯がある。春に短枝上に径3cmほどの5弁花を単生または数個束生する。雄花と両性花があり、雄花はがく筒が広く、花柱は短く、子房は退化している。両性花はがく筒が細長くつぼ形で、花柱は長く、子房は肥厚している。多くの花が雄花で、そのため結実するものは少ない。果実は洋

ナシ状で10月ごろに黄熟し、芳香があるが渋くて食用とならない。花色は変化に富み、鮮紅色のヒボケ、白色のシロボケ、紅白絞りのサラサボケなどがある。〔横井朝子〕

ほげい 【捕鯨】 クジラ類を捕獲する水産業のこと。古くからわが国水産業の重要な部門を占める。操業形態からは2種類があり、一つは基地を中心とした行動半径内で操業する陸上基地捕鯨、他の一つは母船を中心に、漁場を求めて移動できる形態である。わが国ではこれとは別に、前者を大形捕鯨・小形捕鯨・外国基地捕鯨に、後者を北洋母船式捕鯨と南氷洋母船式捕鯨に分けている。対象となるクジラには、次の種類がある。①ヒゲクジラ類：シロナガスクジラ(捕獲禁止)・ニタリクジラ・ナガスクジラ(1973年以降、段階的禁止)・イワシク



ボケ



捕 鯨 ①江戸中期の捕鯨風景 《捕鯨図屏風》大阪市立博物館蔵 ②鉋の発射 ③母船に集められたクジラ(母船は第3極洋丸 23,086総トン) ④母船の甲板における解体作業

ジラ・ザトウクジラ(1963年以降南氷洋では捕獲禁止)・コイワシクジラ(ミンククジラ)。
②ハクジラ類：マッコウクジラ・ゴンドウクジラ・ツチクジラ・シャチなど。

【歴史】クジラと人類とのつながりは古く、その記録は、北欧や地中海地方の壁画に残されているが、これらはおよそBC2000年前といわれる。またアラスカ地方の原始人(BC1500年ごろ)の部落跡からは、クジラの骨が発見されている。以来捕鯨は最も大規模な漁業として、世界各地で行なわれてきた。当初は食肉用として、やがてその油をランプ用に、ヒゲクジラのひげは装身具などの貴重な材料として利用された。中世の北欧の捕鯨は、ノルウェーからフランス沿岸へ、さらにスペイン・ポルトガルへと拡大され、やがてイギリスに伝達されたらしい。また、グリーンランド方面に群生していたホッキョククジラの捕鯨も、同じ16世紀ごろ盛んであった。当時の捕鯨法は、1隻の舟に数十人の捕鯨夫が乗り組み、手投げ鉋(もり)でクジラを射止めた。北大西洋の捕鯨は18世紀が最盛期で、このころセミクジラ・ホッキョククジラが大量に捕獲され、その資源は極度に減少した。わが国でも古くから捕鯨が行なわれていたと推定され、1606年(慶長11)以降の捕鯨の記録は明確に残っている。はじめは槍(やり)や手投げ鉋を用いて捕獲したが、その後1674年に紀州(和歌山県)で網による捕鯨が始められた。すなわち、網の中に追い込んだクジラを槍や鉋で攻撃し、クジラが弱ったところによじ登って心臓を槍で突いてしとめる方法であった。近代的な捕鯨は、1864年にノルウェーで始まった。それは汽船に捕鯨砲をすえつけ、鉋を打ち込む方法で、このノルウェー式捕鯨の開発によって、大形で遊泳力のすぐれたナガスクジラなどの大形クジラの捕獲が可能となり、全世界に普及した。

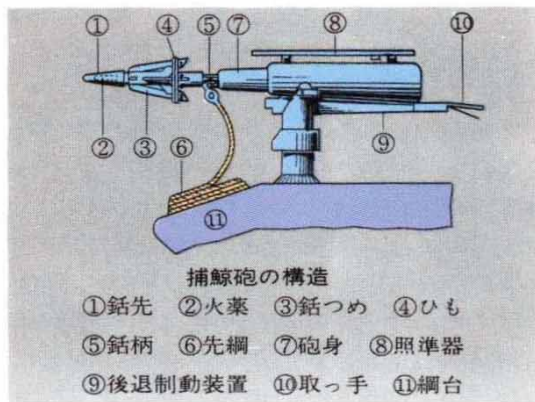
【捕鯨船と捕鯨母船】捕鯨船の行動半径は、通常200マイル程度である。マスト上部に立つ見張りや超短波を利用した鯨探機でクジラを探し、ほぼ50m以内の距離に浮上したとき船首にすえつけた捕鯨砲で鉋を発射する。しとめたクジラには音波発信装置を備えたブイと標識旗を付けて海上に放置し、一定数を捕獲したのちに回収する。捕鯨母船の大きさは一定しないが、現在は平均20,000トン程度で、船尾のスリップウエーから続く上部甲板は解体場となり、皮をはぎ、肉や骨などの分離作業ののち、次甲板の処理工場に送り込まれる。母船式捕鯨では、1母船に約10隻の捕鯨船、大形タンカー1隻、冷凍船1隻、冷凍運搬船2～3隻が付随する。従業人員は約1,500人に達する。

【クジラの用途と捕獲】クジラは脂肪・タンパク質その他の貴重な資源である。ヒゲクジラの肉は食用に、油は食用油脂(マーガリンなど)に加工され、植物油や魚油と同様の目的に使用される。マッコウクジラの油

は蠟質(ろうしつ)で、工業用油脂として用いられる。一般にクジラからは種々のビタミンや薬品類、動物の飼料、肉エキス、鯨蠟などがつくられ、鯨体はほとんど完全に利用される。なお、毎年の漁期・漁区・捕獲頭数などは、国際捕鯨会議(一国際捕鯨取締条約)で定められる。捕獲頭数はマッコウクジラを除いて、油の産出量に基礎をおいたシロナガスクジラ(BWU)を用いてきたが、1972年以降は廃止され、鯨種別に捕獲頭数が決められるようになった。(BWUとはナガスクジラ2頭が、またザトウクジラ2.5頭、イワシクジラ6頭分がそれぞれシロナガスクジラ1頭分に相当するというものである。)1972年(昭和47)の国連環境会議では10年間捕鯨禁止の勧告が採択されたが、その直後の国際捕鯨委員会では、同年の捕獲頭数を前年の33%減とすることで、捕鯨の存続が認められた。しかしクジラを保護しようとする国際世論の高まりによって、今後捕鯨規制の動きはさらに強まるであろう。

【わが国の現況】①南氷洋捕鯨：南氷洋はヒゲクジラのえさとなる生物も豊富で、一般に肥沃(ひよく)であり、夏季にクジラが集中する。1904年にノルウェーが開始して以来近代捕鯨の中心地であったが、現在は捕獲数のわくもせばめられ、1977年～78年の漁期には、南氷洋捕鯨船団は1船団だけになる可能性が高い。②北洋捕鯨：北太平洋海域で夏季に操業する。捕獲頭数枠は年々縮小され、1978年には763頭のマッコウクジラと、524頭のニタリクジラが捕獲可能になるに過ぎない。南氷洋捕鯨と同じく、操業はソ連及び日本だけが行っており、日本枠はソ連枠よりやや少ない。捕獲頭数枠(国際捕鯨委員会による)の縮小のため北洋捕鯨そのものの消滅も憂慮されている。③日本沿岸捕鯨：1899年(明治32)にノルウェー式捕鯨法を導入して以後、急速に発達した。現在はコイワシクジラを除くヒゲクジラとマッコウクジラを対象とし、三陸沿岸と北海道太平洋岸沖を主漁場として操業されている。捕鯨基地には、鯨体解体施設と加工処理施設があり、鯨体の鮮度が低下しないように、捕鯨船は基地を中心とした約200マイル圏内で活動する。しかし、②項で述べた捕獲枠を、母船式と配分するためその頭数は極めて少数になりつつある。④小形捕鯨：北海道・宮城・千葉・和歌山に根拠地を置いて、コイワシクジラ・ゴンドウクジラ・ツチクジラを捕獲している。小形捕鯨の歴史は日本の捕鯨の歴史でもあるが、近年では捕鯨船の数も数隻に減少してしまった。〔石野 誠〕

ほけいせい 【母系制】個人の血縁集団への帰属がつねに母の系統をたどって決定される制度。母と子の緊密な結びつきにより、強固な母系リネージ(血縁集団)・母系氏族が社会の基礎をなし、経済的・社会的共同体の機能を果たす。婚姻は、妻方居住



捕鯨船 クジラを引いて母船へ向かう捕鯨船(第15京丸 738総トン)

婚、あるいは、おじ方居住婚(新夫婦が母方のおじの家またはその近くに住む)をとり、他方政治的あるいは公的地位には男性がつき、それらは、おじ(母の兄弟)から甥(おい)(姉妹のむすこ)に継承されるのが原則である。しかし、集団帰属・相続・継承その他、社会制度の側面のすべてにおいて一貫して母系原理しか認めない民族は少なく、多くの母系制をとる民族でもある程度、父系と母系の双方のしかたが並存している。なお、母系制をもつ民族として、スマトラのミナンカバウ・マレー人が代表的である。〔森部 一〕

ほげいせん 【捕鯨船】クジラを捕獲する船で、キャッチャーボートの代表的なもの。母船式捕鯨業では、1船団に10数隻の捕鯨船が組み込まれるが、基地捕鯨では、沿岸基地から出漁して単独に行動する。他の漁船と比較して、速力が大きく、捕鯨砲を備えていることが大きな特徴で、復原力も大きく、凌波(りやうは)性にもすぐれている。大きさは数百トンのものが多く、捕鯨砲を備える船首楼が著しく高く、船橋とはガンナブリッジで直接結ばれていて、クジラを発見した際に砲手が砲座に直行できるようになっている。また、船橋前部のマストには、見張り台(クロスネスト)がある。捕鯨砲の下側前方には円形の綱台(つなだい)があって、銃(こり)に連結された捕鯨綱(直径約35mm、全長約1,200m)がコイルされている。銃の長さは約1.5m、重さ約70kgで、頭部には4本のつめがあり、先端には爆薬が詰められている。前甲板には命中したクジラを引き寄せるウインチがあり、前部舷側(へんそく)にはしとめたクジラを母船や基地まで曳鯨(えいけい)するための曳鯨孔(えいけいこう)が設けられている。乗

り組み員は、ふつう砲手・船長以下約20名である。〔石野 誠〕

ほけきょう 【法華經】大乘經典の一。原名を Saddharmapundarīka-sūtra (サッダルマプンダリーカ・スートラ)といい、3種の漢訳本が現存する。鳩摩羅什(くまろじゅう)訳(406)の《妙法蓮華經(みょうほうれんげきょう)》が広く流布している。《法華經》は一乗(仏乗)の開頭を説き、三乗(菩薩(ぼさつ)乗・縁覚乗・声聞(しょうもん)乗)の教えを方便とする。《法華經》以前の大乗經典は自利・利他の菩薩行を強調して、菩薩乗を声聞・縁覚の二乗と対立的に把握(はあく)していたが、仏の慈悲の立場からすれば差別を立てるべきではなく、三乗のそれぞれに存在価値を認めるとともに、一仏乗に包括すべきであると主張する。また、仏が入滅したとするのは方便であって、仏はすでに久遠の昔に悟りを開いて仏となった(久遠実成の本仏)もので永遠不滅であると説く。〔塚本啓祥〕

ポケットベル [pocket bell] ポケット形無線受信機。電話と同じく特定番号がつけられ、一般の加入電話からその番号にダイヤル呼び出しがあると、無線基地局を経由した電波によってブザーが鳴り出すしくみになっている。重量約200g。セールスマン・巡回技術者、往診中の医師など、移動中の人に対し至急連絡をとらせたい場合の信号手段として考えられたもので、信号を受けた側は直ちに手近の公衆電話などからあらかじめ指定された所に連絡をとればよい。1968年(昭和43)7月に東京23区内でサービス開始、次いで1969年大阪地区でも実施された。東京では開始後約1年間で需要が15,000をこえ、移動通信の必要性を物語っている。〔滝 誠〕

ポケットモンキー ⇨キヌザル ⇨カニクイザル

ほけん 【保険】⇨次ページ

ボーゲン ⇨スキー

ほこ 【鉾】両刃の剣に長い柄をつけた武器。古くは、神は祭りに際して天から降臨すると考えられており、鉾は神の依代(よりしろ)としたため、宗教的な儀礼に用いられることが多く、しだいに実用的な機能を失って、傘鉾(かきほこ)・山鉾のように祭礼の中にその名称と形態をとどめるに至った。傘鉾・山鉾は山車(だし)の一種で、傘鉾は大きな傘の上に鉾を立てたもの、山鉾は台の上の大嘗会(だいじょうえ)の標山(しめやま)を模した山に鉾を立てたものであり、京都祇園会(ぎおんえ)の山鉾が特に有名である。〔中山和芳〕

ほご 【補語】文の成分の一種。〈湯が水に なる〉〈町が 寂しく なる〉〈K氏を先生と みなす〉のような文節を、修飾語と区別して補語とよぶことがある。補語は必要な成分で、それを欠いては表現が不十分なものになるとされる。一般には、補語は連用修飾語に含めて考える。

ほこうしゃてんごく 【歩行者天国】交
→13ページ

保 険

【保険の意義と効用】現代のような個人主義の経済社会では、いっさいの経済的行為は自由である代わりに、その結果に対しては自己責任で処理しなければならない。しかも個人の家庭生活も企業活動も多く、危険に取り巻かれていて、いついかなる偶然の災害に遭遇するかは、個人的にはまったく予想することができない。かかる不測の事故の発生に備え、人々は予防したり、またひとたび発生した災害や事故を鎮圧するよう努力するが、それでも十分の効果が上げられず、さらに予防や鎮圧にはあまりに費用がかかりすぎる場合には、事後処理のための用意を事前に行なっておかなければならなくなる。そして偶然の災害や事故または不幸な事態の発生したときには、それによる家庭生活や企業活動の経済的な破壊を克服して、それらの永続を確保しようとするのである。かかる行為を経済的保障の達成というが、それにはまず貯蓄が考えられる。しかし貯蓄では、目標額が達成されないうちに偶然の災害や事故が発生してしまえば、不足をきたすことは免れないし、目標額を達成したあとでも偶然の災害や事故が発生しなければ不経済となる。このような弱点のある貯蓄に対して、より合理的な経済制度として考案せられたのが保険である。

保険は、偶然の災害や事故ならびに不幸な事態の発生に備えて、あらかじめ保険料と名づけられる貨幣を支出し、ひとたびそれらが発生したときに、保険金と名づけられる貨幣の支給を受けて、それによって家庭生活や企業活動の破壊を克服し、もって経済的保障を達成する経済的制度である。保険によれば、毎月または毎年、平均化された一定の小額の貨幣の支出によって、いつでも必要なときに、必要な額または所定の額の貨幣の調達をなす。保険によって、家庭生活も企業活動も一段と計画性を強めることができ、経済的保障の達成につき合理化と効率化を推進しうるのである。

【保険の誕生とその発展】遠い昔から保険に類似する制度や原始保険は存在していたが、資本主義社会になるにつれ、各人はその家庭生活ならびに企業活動につき自己責任を負わなければならなくなり、偶然の災害や事故または不幸な事態の発生に対し、個人的に経済的保障を達成する必要が生じて、ここに保険が考案せられた。そして物質文明・機械文化はますます社会に危険を増加させ、増大させたが、他方では数理的技術や企業経営の技術が開発され、また貨幣制度や通信・交通の発達、法律学理の充実などで、一段と保険発達の環境が強化さ

れたのである。そして保険は現代にあつてますます必要不可欠の制度となった。

まず保険は、中世イタリアの都市での海上保険として誕生し、航海と貿易をめぐる損害の発生に備えられたが、それらは個人保険業者による投機的または賭博(とばく)的性格が強かった。しかし徐々に内容と形態を整えて、株式会社組織による近代的保険へと発展していった。近代的都市の成立につれ、海上保険における諸技法を活用しての火災保険が登場してきたが、それには各国の諸都市でしばしば発生した大火が直接の契機となった。しかも都市住民の私有財産たる家屋、家財または商品などの豊富になったことも、火災保険の必要を促したのである。生命保険は、人々が労働力を販売して所得を獲得するようになったときに、最も一般化し、発達した。つまり労働力の宿っている生命と身体の死亡・老齢・疾病(しっぺい)・傷害・廃疾などは、所得の断絶をきたすとともに、不時の出費をもたらすもので、結局は家庭生活の破壊となり、貧窮に陥ることとなる。ここに生命保険への要求が高まってきたが、生命表が作成せられたことならびに経済の発達による生活水準の上昇が生命保険料の支出を可能として、生命保険は著しく発展した。資本主義の進展は、労働者階級の貧困化をもたらし、労資の階級対立は激化した。これらの事態の発生に備えて、社会主義思想の鎮圧を目的として社会保険が成立せしめられた。これは多くの場合、公営・強制の労働者保険として始められたが、現代では社会保障制度へと発展的解消を遂げつつある。

【保険のしくみと原理】保険は同種の危険にさらされている多数の人々や企業が協力して、共同の団体を結成し、個々の人や企業にとっては偶然であっても、それを多数について観察すると災害や事故の発生とその程度に一定の規則性すなわち確率の存在することに着目し、その団体に所属する全員がそれぞれ一定額の貨幣支出の負担をすることにより、たまたま偶然の災害や事故ならびに不幸な事態に遭遇した不運な人や企業に対し、必要とされる額あるいは所定の額の貨幣を提供するものである。貯蓄が単独で個別の経済的保障の制度であるのに対し、保険は協同の相互扶助の社会的制度であり、ここで結成される共同の団体を保険団体という。保険団体は同質・同型の多数な危険の集合体であって、そこでの偶然の災害や事故の発生確率は大数の法則によって把握(はく)されている。保険団体は危険団体ともいわれる。

保険に加入するためには、保険契約を締結しなくてはならない。保険契約は、一方の当事者としての保険者と他方の当事者としての保険契約者とからなる。保険者とは、

所定の事故としての保険事故が発生した場合に保険金の支払いをなすべき者をいい、保険契約者とは、自己の名をもって保険者と保険契約をする者のことをいう。保険契約者は所定の保険料を保険者に支払わなければならない。保険加入者はすなわち保険契約者のことである。保険契約は、申し込みと承諾とがありさえすれば有効に成立するとされるが、実際には保険申込書という書面によって申し込まれ、保険契約成立後に、保険者から保険契約者に、保険証券という保険契約の成立を証し、その内容を明らかにする証券が交付される。この保険証券の裏面に、保険約款といわれるところの保険契約の内容に関する契約条項が記載されているが、保険による経済的保障はこの保険約款の定めるところによって実施される。保険には保険契約者という文言とは別に、被保険者ならびに保険金受取人という文言が多く使われている。生命保険についてみれば、人の生死という保険事故発生の対象体であるその人をいい、生存保険の場合は被保険者と保険金受取人は一致するが、死亡保険や養老保険などでは、両者は一致しない。そして損害保険についてみれば、保険事故発生の対象体としての物そのものすなわち保険の目的に偶然の災害や事故が生じて実際の損害をこうむる者を被保険者とするが、この場合では被保険者と保険金受取人は同一となる。保険契約者は被保険者または保険金受取人と一致するのが普通である。

多数の同質・同型な危険が集合せられて形成される保険団体について、必要な保険金の総額つまり保険者からみれば支出と、個々の保険料の総額つまり保険者からみれば収入とが、過不足のないように計算されていることが保険にとって必要であり、このことを保険における収支相等の原則とするが、このためには保険団体全体として必要な支出額を危険を中心にして把握し、これを各危険に平均して分担させる方式すなわち平均保険料方式と、保険加入者の所得の多寡などによる負担能力の格差をつける保険料の決定方式があり、この2方式に対して給付・反対給付均等の原則といわれる保険料の決定方式もある。

【保険の分類】保険は、家庭生活と企業活動の複雑化に伴って著しくその種類を増してきたが、これを特定の規準にしたがって分類すると次のごとくなる。①危険発生の対象が人間であるか物財であるかによって、人保険と物保険または財保険とする。生命・疾病・傷害・廃疾・失業などの保険は人保険であり、各種の物的財産の保険ならびに責任・信用・利益・再保険などは物保険に属する。②保険に加入し、または保険料を負担する者が家計つまり家庭である

か企業であるかによって、家計保険と企業保険に分かれる。③保険料が国民経済的にみて純粋費用に属するか将来のための蓄積分を含むかによって、費用保険と蓄積保険に分けられるが、長期の生命保険が蓄積保険の代表である。④保険の経営者の公共体か私人かの別によって、公営保険と私営保険または民営保険とされる。公営保険には国の経営する国営保険と地方自治体の経営する狭義の公営保険とがある。そのほか設立を国が強制した保険機関の経営する保険をも公営保険とする見解があるが、この意味においてはわが国の健康保険法にしたがって設立された健康保険組合の保険も公営保険とされる。これとは別に、健康保険法によって、健康保険組合の設立されていないところに、厚生省の監督して取り扱う国営の健康保険があり、また国民健康保険法によって、市町村は国民健康保険を公営保険として経営している。このほか郵政省の経営する簡易保険は国営保険の一種である。そして個人の経営する保険事業としては、イギリスのロイズがあるが、各種の組合保険もまた私営保険または民営保険とされるのが一般である。しかし民営保険の代表は株式会社と相互会社の形態で経営される保険である。⑤保険金があらかじめ約定の一定額として支給されるかまたは発生した損害の度合いに応じて支払われるかによって、定額保険と損害保険に分かれる。⑥保険加入が強制されるか加入者の自由意志に任せられるかどうかで、強制保険と任意保険に分かれる。⑦損害保険については、保険が物財の経済的価値以下につけられているものを一部保険、同額につけられているものを全額保険または全部保険、価値以上につけられているものを超過保険とする。⑧保

険者が引き受けた危険の一部をさらに次の保険者の保険につけた場合、これを再保険といい、そして最初の保険者と保険契約者との間の保険を元受保険または原保険という。⑨保険が国家政策の手段として行なわれるかどうかで、政策保険と個人保険または私保険とに分類され、政策保険はさらに社会政策の手段としての社会保険と、産業の振興や保護などの経済政策の手段としての経済政策保険たとえば農業保険・森林火災保険・漁船保険・輸出保険・中小企業信用保険・中小漁業融資保証保険・住宅融資保険・木船保険などに分けられる。この場合の個人保険を普通保険とすることもある。⑩わが国の商法は、保険を損害保険と生命保険とに分けて規定を設けているが、これは法制上の分類であって、その基準は、偶然の災害や事故または不幸な事態の発生によって生じた損害の程度に応じて保険金の額が異なるのが損害保険であり、あらかじめ保険金の額が定められてあるのが生命保険とされるところにある。

【保険の経営とその監督】生命保険も損害保険もともにその経営のほとんどは、株式会社または相互会社の企業形態による民営にゆだねられている。事業の性質上、生命保険では相互会社の形態が多く、損害保険では株式会社の形態が多い。一般に保険契約の当事者としての保険者は、これら保険会社のことをさす。会社の組織者としては、相互会社では社員、株式会社では株主であり、会社の意志決定機関は、相互会社では社員総会あるいは社員総代会、株式会社では株主総会である。事業資金は、相互会社では基金、株式会社では株金をもって構成され、保険料は、相互会社では確定せず、不足分の追徴や過剰分の払いもどしがある

ことになっているが、実際には株式会社の場合と同じく確定している。事業の経営責任は、相互会社では社員、株式会社では株主が負う。事業の利潤または剰余金は、相互会社では社員に、株式会社では株主に配当される。

保険経営は、保険の勧誘・募集すなわち保険の販売より始められるが、これは保険外務員や代理店などの外野機関によって主として推進される。続いて保険料の徴収や保険契約の整理・保全などの業務があり、最後に保険金支払いの業務がある。これらを円滑に実施するための経営活動があつて、特に数理、危険選択、損害査定、法律などの諸業務が特色となっている。しかしこれら本来の業務に対し、付随的業務とされながらもきわめて重要なものに資産運用活動がある。これは保険契約が大形化し、長期化し、さらに契約数が増加するにつれて、徴収せられた保険料が集積せられて膨大な保険資金となったときに、これを投・融資して運用するところの業務である。この意味で保険会社は機関投資家とされ、金融機関としても産業界に重きをなしつつある。

保険事業は、その公共性から国家の強力な監督を受けている。わが国では〈保険業法〉とその付属法令によって、保険契約者を保護するために事業の健全な発展を期するように、私営保険会社の経営について詳細な規定が定められて、保険監督法規の中心となっている。このほか〈外国保険事業者に関する法律〉〈保険募集取締に関する法律〉〈損害保険料率算出団体に関する法律〉などがあるが、これらは保険契約者の利益を保護し、保険の公共性の見地に立って、保険事業の適正かつ健全を目的としている。

〔庭田範秋〕

通災害と大気汚染の二大車公害に対処すべく、祝祭日の盛り場から自動車の乗り入れを禁止しようという交通規制の構想。昭和44(1969)年、美濃部東京都知事が“歩行者天国”構想を提唱、その時点では地元と警視庁の反対で実現しなかったが、44年度交通災害が、死亡864人、負傷者10万6千人にも達したことと、翌年の7月11日にニューヨーク市が5番街から自動車を追放して好評を得たこともあって、昭和45年8月2日の日曜日に銀座、新宿、池袋、浅草に“歩行者天国”が初めて実現して話題となった。昭和49年には上野駅前から銀座8丁目を結ぶ、世界一長い全長5.5kmのプロムナードが6月10日にスタート、114万1千人の人出で週末を賑わせた。

ほこうそ【補酵素】⇒酵素

ほごかんさつ【保護観察】犯罪を行なった者、またそのおそれのある者を改善・更生させるため、一定の遵守事項を命じて

指導・監督し、また本人みずからの改善・更生を補導・援助する制度。保護司の協力を得て、保護観察所が家庭裁判所で保護観察に付された少年、少年院からの仮退院者・仮出獄者・執行猶予者、婦人補導院からの仮退院者に対して行なっている。遵守事項は、一定の住居の確定、善行の保持、転居・長期旅行の届け出などである。なお、保護観察を規定した法律に、犯罪者予防更生法(1949)・執行猶予者保護観察法(1954)・少年法・売春防止法などがある。〔井上公耳〕

ほごかんさつじよ【保護観察所】各地方裁判所の所在地に設置される保護観察のための機関。法務大臣の管理下で、保護観察のほか、犯罪予防のための世論の啓発、地域社会の浄化などを行ない、保護観察所長の下で、専門的知識・技能をもつ保護観察官およびこれに協力する保護司が活動している。

ほごかんぜい【保護関税】関税賦課に

よって、その商品の国内供給価格を高め、その商品を産出する自国の産業の保護・育成を目的とする関税。輸入関税の保護効果は、国全体からみると資源の適正配分を阻害する場合もあり、損失をこうむるかもしれないが、価格の引き上げられた特定産業は短期的にはつねに利益を得る。保護関税は、工業の勃興(はつこう)しつつある発展途上国で幼稚産業を保護するために必要となる(→育成関税)。また一方、独占段階の先進国では独占利潤獲得のため外国商品の国内侵入を防ぎ、カルテルを保護するカルテル保護関税もある。〔唐木園和〕

ほごこく【保護国】国際条約に基づき、一方の国が他方の国に統治権能の一部を行使させる関係にある場合、保護を与える国(権能を行使する国)を保護国、保護を与える国(代わって権能を行使してもらう国)を被保護国という。通常は外交能力についてみられるが、その法的地位は条約に

よって異なり、行使される外交能力の範囲も条約によって規定される。保護関係の先例としては、イギリスを保護国とするエジプト(1914~1922)、日本を保護国とする韓国(かんてく)(1905~1912)などがある。被保護国は国際法上半主権国家である。〔広部和也〕

ほごし 【保護司】 保護司法(1950)によって設置された非常勤国家公務員。法務大臣から委嘱され、地方更生保護委員会または保護観察所長の指揮監督を受け、保護観察官の業務を補っておもに保護観察^{*}の職務にあたる。無給与なので、社会奉仕の精神をもつ篤志家が選ばれる。任期は2年。犯罪者の更生保護、犯罪の予防、そのための世論の啓発、地域社会の浄化などを使命とする。定数は52,500人以下。なお、地方更正保護委員会は各高等裁判所の所在地に置かれ、3~9人の委員で組織、任期は3年。

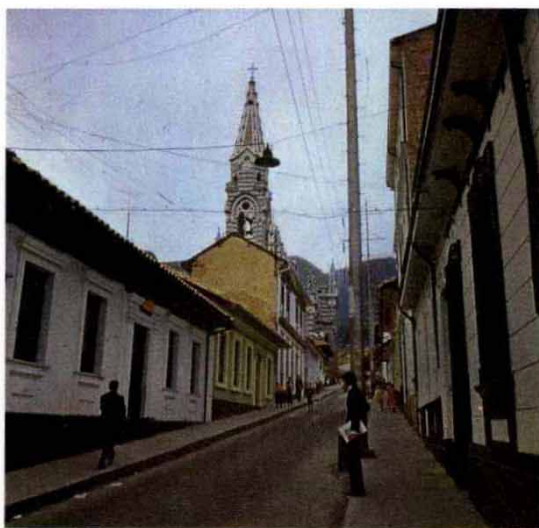
→保護観察所

ほごしょく 【保護色】 動物の色彩が周囲やその背景とよく似るためその動物の敵(捕食者)に気づかれにくい場合、その色彩を保護色という。たとえば山岳や極地の雪の上で暮らすライチョウ・ユキウサギ・ホッキョクギツネなどでは、体色の白いものが多い。また、バッタやカメムシが草の色と同じ緑色であったり、モンシロチョウやアゲハのさなぎが周囲の色に似たりするのも保護色である。保護色はきわめて多くの動物に普通にみられるものであり、被食者が捕食者からの隠蔽(いんぺい)の意味をもつ適応といえるが、一方、捕食者のほうも被食者にみつきにくい色彩である場合が多い。たとえばトラやヒョウの斑紋(はんもん)は一見はでに見えるが、実は森林内では光の陰影とまぎらわしい。また、カマキリやクモの中には虫が多く飛来する花の色彩とそっくりなものがあるなど、多数の例をあげることができる。これらの場合は、保護色とはいわず隠蔽色といっているが、他動物にみつきにくくしていることで、本質的には保護色と同様の適応である。体色が周囲の明暗や色の変化に応じて変わるものも多く知られ、カエル類・トカゲ類・魚類・甲殻(こうかく)類では周囲の明暗によく反応するものが多い。特にカメレオンの色彩適応はみごとなものとして有名である。〔松本忠夫〕

ほごしょぶん 【保護処分】 ⇒家庭裁判所

ほこた 【鉾田(町)】 茨城県南東部、鹿島(かしま)郡の町。人口28,000。東は太平洋、南は北浦に面し、かつて北浦を経て江戸方面に送る物資輸送の港であった。畑が多く、サツマイモ・ラッカセイ・ゴボウ・トウガラシ・スイカをつくり、サツマイモのデンプン工場が多い。養豚も盛んである。常磐(じょうばん)線石岡駅から関東鉄道が通じているが、将来は南から鹿島線が延長される予定である。

ボゴタ 【Bogotá】 南アメリカ北部、コロンビア共和国の首都。人口286万(1976)。



ボゴタ市の中心商業地区を除くと、植民地時代の古い建築が多く残っている。町は斜面にも広がっており、坂道が多い

熱帯にあるが、アンデス山脈中の標高2,650mの高所に位置しているのでのぎよい。1538年スペイン人の侵入者が大陸経営の基地として建設したのが起源で、1819年コロンビアの独立とともに首都となり、政治・経済・文化の中心地となった。付近の山地から岩塩・石炭・エメラルドなどを産するが、その量は少ない。市内には機械・綿織物・毛織物・食料品などの工業がある。

〔小栗 宏〕

ほごちよう 【保護鳥】 旧狩猟法によって指定され、捕獲が禁止されていた鳥類。現在の〈鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律〉では、以前とは逆に狩猟鳥を指定しており、野生鳥類はすべて保護すべきであるという原則によっている。→狩猟鳥獣

ほごぼうえき 【保護貿易】 種々の貿易障壁によって輸入を制限する一方、輸出奨励策を遂行することによって輸出を増大せようとする貿易政策。保護貿易の形態および論拠は、国によってまた発達段階によってさまざまである。広義にとれば、産業革命以前にヨーロッパでとられた重商主義^{*}の政策が含まれる。重商主義は近代国家建設期の財政を確立するため、商業貿易を保護し、金銀の流出をおさえ、流入を図る政策、つまり貿易差額を重視する政策であった。この貿易思想は、財ではなく、貴金属のみを財産と考える誤りを犯しているが、反面、貴金属の流入によってもたらされる好況、雇用拡大の効果に着目していた点で、理論的根拠を有している。貿易取引差額をめざす保護政策と違って、各国に産業が勃興(はつこう)し、しかもイギリス一国が強大な国際競争力を有する時代になると、後発資本主義諸国は、幼稚産業を保護するために、育成関税^{*}および保護関税^{*}をはじめとする保護政策をとるようになった。時代的には、自由貿易主義時代のあとの19世紀末であり、狭義の保護貿易は特にこの時代の政策をさすことが多い。ドイツでは1873年の恐慌のあと、1879年に鉄・毛織物・綿織物その他

の工業品に保護関税が付せられた。また、アメリカのマッキンレー関税(1890)も、保護関税の代表的なものである。第1次世界大戦後、さらに世界恐慌のあと各国が経済の復興、雇用の改善のため、再び貿易差額をめざした保護貿易政策をとるようになった。しかし、これは有効需要を一国を中心に考えて拡大しようとする近隣窮乏化政策^{*}になりがちであり、他国の報復を招くことが多かった。第2次世界大戦後は、後進国が政治的独立に続いて経済的自立をめざすようになり、工業化を促進させるという観点から、幼稚産業保護論が現代的課題として再び取り上げられている。このほか保護の論拠としては、一国が戦略的その他の理由で必需品の国内生産を確保するため、また、既存産業やカルテルの独占的利潤を確保するためなどがあげられる。しかし、もし国内にひずみが存在しないとしたら、自由貿易論からは、幼稚産業保護論のみが是認できる論拠であろう。〔唐木圀和〕

ほこりだに 【埃蟬】 蛛形(ちゅうけい)類・ダニ目・ホコリダニ科の総称。貯蔵穀粉・乾物・菓子などの食品類や医薬品などを加害する微小なダニで、体長0.15mm内外。雌には気管系と気門があるが雄にはなく、体は頭胸部と腹部とに明瞭(めいりょう)にくぎられている。自由生活を営む。小麦粉・乾魚・乾燥シイタケ・トウガラシなどにつくナミホコリダニ、貯蔵麦粒につくムギホコリダニなどが日本に分布する代表的な種類である。

ボゴール 【Bogor】 インドネシア、ジャワ島西部の都市。人口19万6,000(1971)。ジャカルタの南60km、サラク山北麓(ほくろく)の標高250mに位置する。オランダ領時代にはボイテンゾルグとよばれ、ジャカルタの避暑地として知られていた。当時の総督の別邸は、現在、大統領の別邸になっている。1817年に開設された熱帯植物園があり、各種の研究所も付属して熱帯農業研究の世界的な中心となっている。60万点の標本をもつ腊葉館(さくようかん)は特に著名である。

〔別技篤彦〕

ぼさつ 【菩薩】 梵語(ぼんご) bodhisattva (ボーディサットバ)、パーリ語 bodhisatta (ボーディサッタ)の音訳で、〈悟りを求める修行者〉〈求道者〉の意。したがって、もともとは成道以前のブッダをさす語であったが、大乘仏教ではすべての修行者が仏と同じ悟りを得ること、すなわち成仏することを理想としたので、彼らは出家・在家を問わずみずから菩薩と称した。この大乘の菩薩たちは、ブッダが仏となるまえに世のため無量の善根功徳を積んだのと同じように、利他行に精進することによってみずから菩薩たることを自覚したのである。かくして大乘仏教は無量無数の菩薩たちを生んだ。菩薩ということばはやがて大乘仏教の進展とともにその理想像を示すものと